

上 京

史蹟と文化

美を創る

京都の新年は、まろやかな西京白味噌仕立の「京雑煮」で明ける、と言われるほど地元では馴染み深い「西京白味噌」。今回は、そんな京都の食文化を創り、守り、そして伝え続けておられる株式会社本田味噌本店の7代目社長本田茂俊さんにお話を伺った。



株式会社 本田味噌本店 ほんだみそほんでん 7代目社長

本 田 茂 俊

上京区室町通一条上る小島町

現在、室町一条に店を構える本田味噌本店は創業1830年（天保元年）。丹波杜氏であつた初代、丹波屋茂助氏が禁裏御所（現在の京都御所）の御用命を受け、宮中の料理用味噌を吟醸し、献上したのが始まりである。迎えてくれた「丹」の字を大きく表す暖簾は、創業家からのヴィジュアル・アイデンティティである。明治維新により都が江戸へ遷都され、改名後の「東京」でも京都の淡色・甘口の味噌が求められ、東京に対して京都を「西京」とも呼んだことから、「西京味噌」として名が知られるようになった。

味噌は、大豆、米、食塩を主原料とし、これらの配合割合と熟成期間によって多種多様で、日本各地の気候や風土に根ざした郷土色の強い調味料である。しかしながら食生活の変化で、味噌の消費量は右肩下りだという。本田社長は「業界では左肩

上がりと言います」といつてユーモアを交えて話してくれたが、味噌を扱う企業や店舗も、ピーク時の約2000社から今では800社ほどに減少している。

そんな中、本田味噌本店では時代や嗜好の変化に柔軟に対応しつつも、原理原則は崩さず、料理の味を支えている。「西京白味噌」は塩分約5%と、味噌の中でも最も低塩。また、米麴を大豆の約2倍使つて仕込んでいる。これは、京都が公家の文化圏であり、労働による塩分の補給や保存性の高さよりも、嗜好品としての甘味が求められ、また都であつたが故、貴重品であつた「米」をふんだんに使用できたことに由来する。

そんな伝統ある「西京白味噌」だが、本田社長曰く「長い歴史の中で、今が一番おいしい味噌を提供できているのではない」との事。現在、味噌を製造しているのは、創業者ゆかりの地、丹波にほど近い京都府綾部市に開設した「丹波醸房」。環境に配慮した最新設備で徹底した衛生管理と品質管理に加え、長年受け継がれてきた職人の経験や勘をデータベース化し安定した味を生み出しているのだ。



しかし、味噌づくりに職人の勘や経験が必要でなくなつたわけではない。「季節によって細やかに変化する醸造のプログラム」は、今まで培つた本田味噌本店の経験が十分に生かされています。その上、最終的な仕上がりを判断するのは職人の目。決して妥協は許されないのです」。最新の製造システムと、永年培つてきた職人の経験、目、ノウハウが相まって、全国味噌鑑評会で幾度と農林水産大臣賞を受賞してきた「西京白味噌」を産み、育んでいた。本田社長は言う。「米、大豆といった原材料もこだわりの産地のものを使用していますが、その年によって変動します。味噌づくりも気候、水温に影響を受けます。それらはこれまで職人の経験や勘に頼ってきましたが、技術を後世へ伝え、安定した味を提供するため、最適な情報をデータ化しています。もちろんデータやコンピューターに任せるだけではなく、職人が五

感で判断しながら本田味噌本店の味を守り、受け継いでいくことを大切に行っています」。

本田味噌本店が創り出す美しさとは、「西京白味噌」そのものの柔らかな色と質感、そしてまろやかな甘味の美味しさ。それらを生み続ける創業時から守

り伝えられている精神。そして自然の恵みをたっぷりと受けて、余すところなく身体のエネルギ―となる原材料へのこだわりと環境意識。更にそれを支える最新システムを導入し衛生管理された製造環境…。それら全てにあると感じた。

「味噌は料理の主役ではなく脇役です。味噌屋といえる商売をせいで、と代々鉄則として伝えられてきましたが、身近に楽しめるおいしい味噌を提供することが使命です。食生活の変化で味噌の消費量が減少する中、時代に応じた新しい商品や用途開発にも力を入れ、販路を開拓しています」。本田社長の言葉には、7代目「味噌屋」といえる誇り、強い使命と絶やさない努力、老舗の伝統を大切にしながら、それに奢らない経営手腕を感じた。今後も業界をリードしながら味に深みを出し、料理の名脇役としてのストーリーを紡いでくれるであらう。

もうひとつ、本田社長から大事なことを教えていただいた。それは、「造り半分、終^{しま}い半分」という教えた。終いとは清掃のことで、片付けに就業時間の半分の時間をかけている。全従業員が意識して取り組む事で、業務に専念できる労働環境の改善を図ることができるとの事。それらが「食の安心・安全」に繋がっていることは言うまでもないが、自らが安全で美しい環境を創り出しているという精神も、美味しい食を生み出している要因の重要なポイントであると知った。

感銘を受け、私も今後、掃除にしっかりと時間をかけて「終^{しま}い半分」を実践してみようと思う。料理の腕前が少しでも上達することを期待して。

(be 京都館長…岡元麻有)

ぶどうの 上京

和菓子で知る今昔

「唐板と御霊神社」

和菓子教室こぼと主宰 堀部美奈子

「こころしづめ」のお守りをご存知ですか。最近、心がざわついてどうしようもなくなってしまう私は、すぐる思いでその「こころしづめ」のお守りを求め、御霊神社（上御霊神社）に足を運んだところ、「こころおどらされる」思わぬ出会いがありました。それが、御霊神社とゆかりのあ



る、水田玉雲堂の「唐板^{からいた}」というお菓子です。「唐板」とは、小麦粉と砂糖と卵と塩だけでできた生地を平たく伸ばしてカットし、銅板で両面に焼き色をつけた、ほのかに甘く、ぼりぼりとした食感の素朴なお菓子です。

烏丸通から上御霊前通を東向きに進むと現れる御霊神社の西門の向かいに、風に揺れる暖簾を見つけました。「からいた！」私は思わず小さく叫んでしまいました。「唐板」といえば、和菓子の歴史が書かれた本には必ず紹介されている伝統菓子。和菓子に携わる仕事上、いただいたことはあるのですが、実際にお店を訪れたことは



なかったもので、興奮を抑えきれませんでした。きつと和菓子好きの方が初めて訪れるとしたら私と同じように声を弾ませずにはいられないのではないのでしょうか。引き戸を開けて中に入ると、地元の方と思われる先客がいっぱいいました。3、4人も入れればいっぱいになるほどのこじんまりとした店内、順番を待つ間、奥の部屋からトントンと軽快な音が聞こえてきました。私は改めて歴史上のお菓子と言っても大袈裟ではない「唐板」を手にすることに感動していました。



相談
無料

見積
無料

見学
無料

明瞭
価格

豊富な
プラン

24時間
365日
対応



0120-004-200





唐板と御霊会

「唐板」の由来は平安時代にさかのぼります。その頃、疫病が流行し、たくさんの方が亡くなりました。当時の人々は、疫病の流行や大きな災害、驚くような不幸が続くことは、「祟り」のせいだと考えていました。

疫病のあまりの状況に、863年に神泉苑にて「御霊会」^{ごりようえ}と呼ばれる祟りを防ぐための鎮魂の儀礼が行われ、その際に厄除けとして庶民に授与された「唐板煎餅」が今に続く「唐板」の始まりとされています。

その後も長く続いた神泉苑の「御霊会」は応仁の乱のために絶えてしまい、「唐板煎餅」も同時に姿を消してしまいました。時は流れて、応仁の乱が終わると水田玉雲堂の初代が御霊神社の境内に茶店を開きます。今では「門前菓子」と呼ばれることもあります。当初は門前ではなく境内の藤棚の近くに、茶店とお住まいがあったそうです。初代が「唐板煎餅」の

 HOSOO

HOSOO FLAGSHIP STORE

〒604-8173 京都市中京区柿本町 412
TEL 075 - 221 - 8888 10:30 - 18:00 (祝日を除く)
www.hosoo.co.jp



ことを知り、古書を頼りに蘇えら
せたというのが今と同じ形をした
「唐板」で、日本の最古の菓子と
いわれています。名前に「唐」が
ついているのは、遣唐使・吉備真
備によつて唐から持ち帰ったもの
を元に作られたからだそうです。
「唐板」は「厄除け菓子」ともい
われ、御霊神社の参拝のしるしに
とお土産に求められてきました
が、500年以上の時を経て、現
代の私たちも口にすることができ
るのはとても奇跡的なことだと思
います。

御霊神社と御霊会

御霊神社は、桓武天皇の弟であ
る早良親王はじめ、非業の死をと
げた人々の怨霊を宥めて祀ってい
る神社です。平安時代始めの創祀
であり、のちに神泉苑で行われた
貞観御霊会で祀られた御霊が共通
しているため、貞観御霊会は今も
毎年五月十八日に行われている御
霊神社の御霊祭の発祥とされてい
ます。



桓武天皇といえは、誰もが子ど
もの頃から日本史の授業で覚える
「鳴くよ（794年）うぐいす、平
安京」の平安京を遷都した天皇で
す。桓武天皇と、同母の弟であつ
た早良親王は、当時皇太子でした

が皇位継承に関連し、桓武天皇と
仲のよかつた藤原種継暗殺の容疑
をかけられてしまいます。早良親
王は絶食をして無実を証明しよう
としましたが、甲斐もなく流刑の
道中亡くなります。邪魔するもの



〒602-8469 京都府京都市上京区中筋通浄福寺西入中宮町 300
TEL.075-441-0753 URL: <https://www.nishijin-uoshin.co.jp/>

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

<https://seishodo.com/>

お気軽にお問い合わせください

がいなくなった無敵であるはずの桓武天皇でしたが、それからというものの、身近な人の相次ぐ死や多くの災害に遭い、これらの難は早良親王の「祟り」ではないかと考えるようになりました。本当に「祟り」というものがあったのでしょうか。それとも、血の繋がった弟である早良親王を死に追いやってしまった後ろめたさや後悔が「祟り」「怨霊」という思考を生んだのでしょうか。

こうした遠い昔の話は、歴史上のお話のように感じてしまいますが、現代に置き換えて紐解いてみると、いつの世も人の恨みや人間関係、心の乱れというものは変わらないものだ改めて実感しました。

今日、御霊神社は、地元の人々からは「上御霊さん」「ごりょうさん」と呼ばれて親しまれています。5月には御霊祭が行われ、前日の宵宮祭を初め、お祭り当日はお神輿や御所車などが氏子地域を練り歩きます。5月を除く毎月18日には、ごりょうさんの「さえずり市」が開催されていて、地元

の方の手づくり雑貨などが出品され賑わいます。

水田玉雲堂の店内には、御霊神社の境内にあった茶店の頃の写真が飾ってあります。写真に写る藤棚は、今でも境内に残る当時と同じものだそうです。訪れる人が、御霊神社に手を合わせ「唐板」をお土産に持ち帰る光景もまた、境内の藤棚と同じように今もここにあります。

小さな袋入りの唐板を一つ購入した私は、家に帰るまで我慢できず、鴨川のベンチに腰掛けて「一枚だけ」と味見。綺麗に揃った短冊形、狐色のコントラスト、生地が膨らむ時に付く不揃いの丸模様、ぼりぼりとした歯触りは軽く、よく噛むとしゅわっと小麦と砂糖の甘い香りが口の中に広がります。茶道でお茶菓子に用いられることも多いと聞き、抹茶にはもちろんのこと、家庭ではホットミルクや深煎りのコーヒーとも合いそうだなと思いました。後日、小学生の娘も初めて食べて気に入ったよう

で「もう一枚」と手が伸びてきました。幼い正直な舌にもわかるシンプルな美味しさです。

お話を聞かせていただいた、水田玉雲堂の店主・水田千栄子さんによると「何より味が一番です。」と仰られます。しかし、その「味を保つ」ために相当な気遣いが必要だとも伺いました。毎日変わる湿度や気温の変化を敏感に感じ取るために、道具や材料の場所は目をつぶってでもわかるくらい同じようにしておかないと、その日の生地の状態に集中できないそうです。永く続いてきた味をこれからも守っていくという作り手の思いと姿勢は、尊敬の念に堪えません。私が求めた「こころしづめ」のお守りが、新たな出会いを導いてくれました。



心しづめの宮
御霊神社
(上御霊神社)

毎月18日 さえずり市(5月を除く)
上京区上御霊前通烏丸東入
電話075-441-2260

上京人物探訪 松平容保

京都産業大学 日本文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

現在の京都府庁、第二日赤病院、梅屋校を含む地域にあった京都守護職屋敷。今回はその京都守護職についた「松平容保」がテーマです。「会津八公・会津中納言」とも呼ばれる会津藩のお殿様ですが、出身は高須藩松平家現在の岐阜県です。幕末の政局混乱期に、「京都守護職」として都の治安に尽くしましたが、「禁門の変（蛤御門の変）」での、長州との戦で、都を大火事に巻き込んだため、当時の都の人々からは、戦による大火災のきつかけを作った一人として、余り良くないイメージが抱かれていました。しかし、実は天皇への忠義が厚く、また幕府への恩義も忘れず、そして何よりも民を思いやる姿勢を持っていた、若き大名だったのです。

■高須松平家の六男、会津松平家へ。

天保6年（1835）四谷にあった高須藩の江戸藩邸にて誕生。父は、松平義建^{よしたつ}。12歳の時、叔父の松平容敬^{かたなか}の養子となり、約5年後、第9代会津藩主に就任します。若き日の容保は、江戸廻りの海防や軍事訓練で、その才能を発揮し、更に大火災の消防や救助活動にも非常に精力的で、幕臣達の心を掴

んでいきました。また「桜田門外の変」後の対応として、水戸藩の暴走を怖れた幕府の老中達が、尾張や紀伊にも水戸藩問責の兵を促そうとしましたが、容保は、毅然としてこれを諫止。徳川御三家の不協和を未然に防いだことに、時の將軍徳川家茂もいたく感心したといえます。一方で、水戸藩の尊皇派が朝廷に提出した建白書や、



京都守護職屋敷跡 石碑
(京都府庁表玄関付近)
<画像提供・掲載協力：京都府>

一部の公家が反応した密勅にも対応し、水戸藩急進派や幕閣保守派の調停にあたり、見事に事態を収拾しています。しかし、今から思えば、この迅速な対応力、卓越した交渉力が、幕府や朝廷に強い印象を与え、容保に後々の活躍の場を提供し、また皮肉なことに、運命の歯車が狂い始めることになったといえるでしょう。

■京都守護職として、

天皇、都の人達のために奮闘す！

容保の優秀な活躍ぶりに目をつけた幕府は、「京都守護職」という臨時的な大任を与えようとした。当初、会津藩の家老達は「火

中の栗を拾うがごとし！」と猛反対でしたが、会津藩祖、保科正之^{ほしなまさゆき}の残した「幕府が危難の折は、積極的に力を貸すべし」という遺訓に忠実であった容保は、やがてこの大任を拝命することに。そして、藩士藩兵併せて2,000名の規模で上洛となりました。

容保らは、金戒光明寺（左京区黒谷）に屯営し、そこから洛中に置かれた京都守護職屋敷（現在の京都府庁や第二日赤病院廻り）に通っていました。黒谷の会津藩屯所から、洛中の京都守護職屋敷までには、禁裏（現在の御所）や会津藩の練兵場がありましたので、容保は左京から鴨川を挟んで、上

京にかけてのエリアを頻繁に往来していたと考えられます。

さて、この「京都守護職」なる役職ですが、幕末に急ごしらえて設置されたものです。尊王攘夷派が都に集まるにつれ、都の治安が急激に悪化し、それまでの京都所司代や京都奉行では、取り締まることのできない状態になっていたところ、幕府が治安維持と情報収集の打開策として設置しました。

この京都守護職の統制下に、京都所司代や東西奉行所も組み込まれることになりました。また治安取締りの人員不足を理由に置かれた「京都見廻組」や、やがては会津藩お

抱えの「新選組」をも実質的にはその傘下に収めることになりました。

■お上の一大事！

「禁門（蛤御門）の変」勃発！

元治元年（1864）「禁門の変」が、禁裏の至近で勃発しました。世にいう「蛤御門の変」です。長州藩が率いる兵達が禁裏を三方から囲みました。乾御門・堺町御門・新在家御門の三か所です。そのうち、「蛤御門」とも呼ばれる「新在家御門」の外側に陣取っていた長州藩の精鋭部隊が突入を敢行し、この周辺が一番の激戦地となりました。内側からは、天皇を護



新在家御門（蛤御門）

＜画像提供：環境省京都御苑管理事務所＞

らんと、容保率いる会津藩兵が応戦します。八月十八日の政変や池田屋事件で、多くの仲間を失っていた長州藩の勢いは凄まじく、門から徐々に清水谷家付近までジリジリと攻め込みます。現在も清水谷家に当時あった

ムクノキが残され保存されていますが、この場所は天皇のおはす御所とは、目と鼻の先の至近距離。容保たちも必死の防衛線を張り、食い止めようとしてしま

た。その時、乾御門を護っていた

薩摩の銃砲隊が、援軍に駆け付け、劣勢を挽回しました。会津藩と薩摩藩、この時は対長州藩として、仲間だったのです。後の、戊辰戦争の会津若松城攻防戦では、薩摩藩を主力とする新政府軍が会津藩を包囲したことを思うと、時局の流れとはいえ、やり切れなさが残ります。

■「戊辰戦争」勃発！

鳥羽伏見の戦いから会津戦争へ

慶応3年（1867）幕府軍と薩摩・長州軍が、鳥羽・伏見で激突します。これが「鳥羽伏見の戦い」で、「戊辰戦争」の最初の戦



松平容保（武將姿）

＜画像提供：会津若松市＞

いとなりました。この時、幕府軍の主力は、会津や桑名藩でした。容保は、徳川慶喜らと戦局を大坂で見つめていましたが、やがて、淀藩の寝返りもあり、慶喜は江戸へ船で戻ることを決め、容保も無理やり連れて行かれます。その後、慶喜は朝廷に恭順の意を表し、上野の寛永寺で謹慎します。

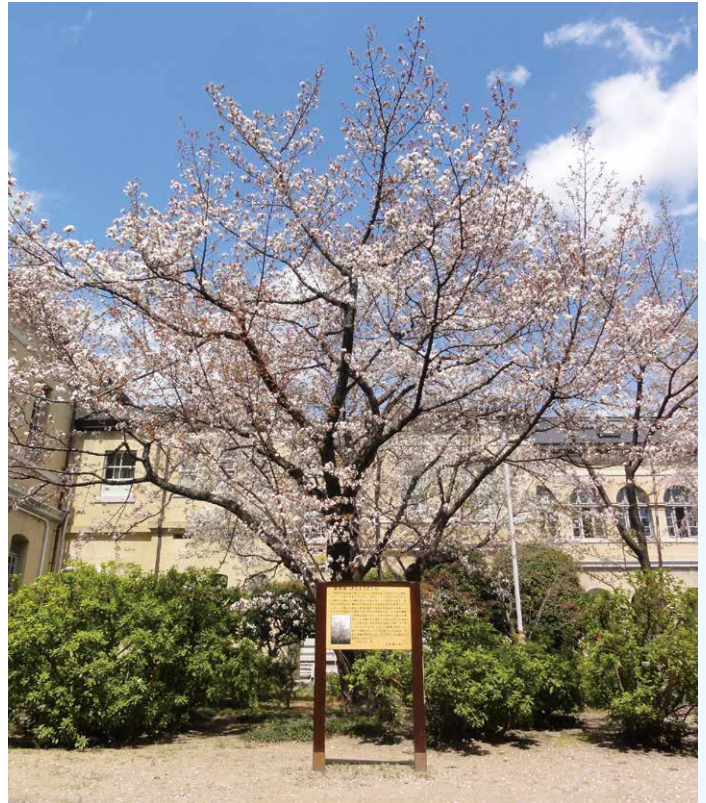
しかし、容保ら会津藩は地元に戻り、奥羽列藩同盟を頼りに、新政府軍と刃を交えることになりました。長岡藩など、強硬に抵抗した藩もありましたが、やがて時局を見つめ直した東北の雄藩も、次々と新政府軍側につき、会津藩はやがて孤立していきます。

それでも、白河で戦った二本松藩と共に、辛抱強く戦い抜きました。白虎隊や娘子隊の悲劇もあり、やがて天守が無残にも、敵の大砲に晒される毎日であっても戦い抜いたものの、遂に容保は開城を決意。容保は自らの命と引き換えに、開城に踏み切ったのです。

■明治の世、会津公は

戊辰戦争は収束に向かいますが、容保は朝敵の汚名を着せられます。処刑されること無く、しばらくは蟄居謹慎^{ちつきよ}の生活を強いられるものの、やがては謹慎も解け、明治13年（1880）日光東照宮宮司に就任しました。新たな日々を送ることになった容保の胸中は、非常に複雑であつたと思われます。

信賴し、信賴をされていた天皇のために粉骨砕身していた自分が、いつの間にか、朝敵として攻撃される身となり、多くの家臣達に犠牲を強い、何より会津の領民や、都の人々の命を奪うこととなり、やりきれなさがあつたことでしょう。明治の世となり、神職となつ



容保桜（京都府庁 本館中庭）

＜画像提供：京都府＞

た容保が、世間に対して余り多くを語らずにいたのは、やはり会津や京都、江戸で誠心誠意、任務を全うし、その上での結果であることとを静かに噛みしめていたからではないでしょうか。京都府庁旧本館中庭の桜の中に、桜守で著名な、

佐野藤右衛門氏により名付けられた、1本の珍しい桜「容保桜」があります。大島桜と山桜の交配種

であるこの桜は、まさに朝廷と幕府の間で揺れ動いた会津公の境遇を表しているかのようです。府庁本館の中庭角に咲く、その桜は、幕末の動乱に揺れる都を守り抜こうとした会津公の、儂くも一途な姿勢を彷彿とさせてくれます。

★画像提供 並びに掲載協力

環境省京都事務所・京都府・会津若松市



足腰の守護神

京都御所西
護王神社

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下長者町下ル
(地下鉄丸太町駅下車北へ7分)

<http://www.gooujinja.or.jp/> 電話 441-5458

歴史文字シリーズ



伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御雲前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

赤門の竹林寺と

ろっかくごくしゃじゅんなんししのはか 六角獄舎殉難志士之墓

元郷土紙記者 山本 雅章



由緒を示す竹林寺の赤門

ほぼ上京区の西南端、西大路から下立売通に入り天神川に架かる新下立賣橋を越えて歩めば左手に朱塗りも鮮やかな山門を構えた寺が目に入る。浄土宗西山禅林寺派の「五台山 法泉院 竹林寺」。京都市内でも、ときに目にする赤門は、いつの時代かの天皇家とのゆかりにより許された門なのだという。赤門の竹林寺で通称は「赤竹」、住宅街に静かにたたずむ寺だが、なかなか由緒を感じさせる。

一遍上人の兄弟弟子道教上人が創建

創建は弘安二年（1279）というから鎌倉時代半ば。執権北条時宗が二度の「元寇」を退けたころに当たる。浄土宗を開いた「鎌倉新仏教」の巨星、法然上人の弟子のひとりで西山派の開祖・証空上人の孫弟子にあたる道教上人が後宇多天皇の勅願により開いたとされる。道教その人は、「踊念仏」を広めた「時宗」の宗祖・一遍上人の一歳年上の兄弟弟子というから、仏教史の上からも興味深いゆかりを持つ。

開山・道教自身も学僧として名を残し、著書の「浄土竹林鈔」上下二巻の中で、「生仏不二 生仏一体」論を説いて、法然上人が広めた「念佛による浄土往生」の教えに忠実であった姿を証している。

尊王攘夷派三十七志士を顕彰

門を入ると境内右手にただちに目に入るのが、高さ二メートルを越す大

きな自然石に多くの人命が刻まれた石碑。同寺を世に知らしめている「六角獄舎殉難志士之墓」だ。

「維新・倒幕の導火線」とも言われる天誅組の大和拳兵やこれに呼応した「（但馬国）生野義拳」「池田屋事件」と時代を象徴する事件に絡んだ尊王攘夷派三十七志士の遺骸を埋葬し、顕彰する碑でもある。埋葬者の中で最も知られた名が生野義拳の平野國臣だ。ちなみに生野義拳には、明治初期に第三代京都府知事となり琵琶湖水など各種の「開化」策で名を残す北垣国道（晋太郎）も関係した。

「尚古かぶれ」から倒幕論へ

平野國臣は西郷隆盛、清河八郎、真木和泉など大物志士らと肩を並べる「維新の先駆け」的な志士だった。文政十一年（1828）生まれの元は福岡藩士。父は足軽ながら千人もの門弟を育てた「神道夢想流杖術」の使い手という武の人。士分に取立てられ、



維新の激動が偲ばれる六角獄舎殉難志士之墓

その縁で國臣は鉄砲頭の家に養子に入っている。本人は、漢学、国学を学び、日本古来の制度を尊ぶ「尚古主義」に傾倒する。ペリーが来航した嘉永六年（1853）に二度目の江戸勤番となり、その折に水戸藩の会沢正志斎「新論」などにふれ、「尚古かぶれ」が昂じた。面白い逸話に安政元年（1854）、江戸から国元に帰る際には古制の「義経袴」を穿き、熊皮を鞆尻に穿かせた太刀を腰に下げるという時代離れた姿で江戸を出立

した。本人は得意満面ながら、見送る人たちは苦笑したという。後年には国元で烏帽子、直垂姿で外出するなど尚古主義が高じ、藩主に「犬追物」の復活を直訴するなど過激な言動をとるようになった。大老井伊直弼が尊王攘夷派を一挙に弾圧した「安政の大獄」の際、公家との連絡役だった勤皇僧の月照とともに前途を悲観して入水した西郷隆盛を救った一件でも著名だ。さらに井伊直弼の暗殺にも計画段階では関連を持っている。そ

の後、薩摩に潜入し、事実上の藩主、島津久光らに自ら書いた「尊攘英断録」を説こうとするが容れられず、退去する際に詠んだという歌が「わが胸の燃ゆる思いにくらぶれば煙はうすし桜島山」。歌人としても評価されている。

挫折に次ぐ挫折

文久二年（1862）、島津久光の上洛を機に志士らが拳兵を図る計画を巡らし、かえって久光の逆鱗にふれ、薩摩藩の「誠忠組」の侍同士が切り結んだ「寺田屋事件」の際に國臣も幕吏に捕われ投獄された。出獄後の文久三年には、三条実美卿ら尊攘派公家らと孝明天皇の「大和行幸」を画策したが、「八月十八日の政変」で七公卿が追放され長州へと落ち、またもや計画は挫折。大和拳兵に呼応した生野義拳を主導して捕らわれ、京都所司代が管理していた六角獄舎に拘禁された。翌年起こった会津藩と薩摩藩が長州藩を追い落とす

京都に生まれて五世紀



www.toraya-group.co.jp



ぼたん鍋と京料理

元祖
煙かく

京・上御霊前烏丸西
☎〇七五・四四・〇六一〇代

「禁門（蛤御門）の変」の際、市中火災を口実に他の志士らと未決のまま殺害された。

刑場跡から偶然に発見

多数の遺骨は明治十年、幕末の西ノ京町付近にあった西刑場跡から瓦片に姓名を朱書きしたものとともに見つかり、遠からぬ場所にあり当時無住だったこの寺に埋葬された。以後、再び忘却されていたものを明治四十三年になって当時の住職、小澤真道氏が樹木を植えようと土を掘った時に再び見つけた。二個の骨壺に納めて現在の場所に埋葬し、石碑を建立し慰霊祭も行った。まことに数奇な経過をたどったものである。

古高俊太郎の名も

「殉難志士之墓」には古高俊太郎の名も刻まれる。安政の大獄で

最初に捕縛された梅田雲浜の弟子で、河原町四条上ルにあった福岡藩黒田家御用達の商人・枅屋喜右

衛門を名乗った。大名家や公家の屋敷に出入りして長州毛利家のために情報を集める勤皇家だった。熊本藩士で尊攘派の宮部鼎蔵との関係から新選組に捕えられ、逆さ吊りにして足の甲に五寸釘を打ち、火をつけたろうそくを灯すという過酷な拷問により自白させられた。自白で志士らが御所放火や京都守護職の会津藩主松平容保殺害などを計画し、実行のために多数が上洛、潜伏していると発覚。探索に当たった新選組が池田屋で宮部鼎蔵を含む多数の志士を惨殺・捕縛して一躍名を挙げた「池田屋事件」は幕末史では特に知られる。ただ、計画の内容は幕府・新選組側の捏造が色濃いとされている。

一木等身の優美な観音菩薩

寺自体は応仁の乱（1467～1477年）や「天明焼け」（1789年）など歴史に残る大火で幾度か堂宇を焼失。戦国時代以降百

年以上は住職もなく衰亡した時代もあった。江戸時代に入り、徳川家康が浄土宗西山派禅林寺（永観堂）を「総本山」とした朱印を下したことに伴い、この寺も禅林寺の末寺となって再建された。都に所在する古刹らしい波乱の来歴だ。その盛衰の中で、寺にもたらされた「宝」の一つが、観音堂に安置された「十一面観音菩薩立像」。

いるが、一木等身像で左手に蓮華を持つ。優美な立ち姿や左右に流れる天衣など意匠を基に判断して平安時代、藤原初期以前にさかのぼる作とされる。小澤昭美住職の言によれば、「いつの時代かに東山の某所から招来された」という。来歴はつまびらかでないものの、由緒ある貴重な仏と拝察される。

※参考文献Ⅱ「平野國臣伝」（日本史籍協会編「野史台 維新史料叢書」所収）など



観音堂に安置された十一面観音立像



花ボラメンバー募集についてのお知らせ

上京区総合庁舎前の花壇を彩るお花のお世話をいただいている「みんなで花を咲かそう」活動ボランティア、通称「花ボラ」。日常の水やりのほか、年に2回の一斉植替え作業などを実施し、和気あいあいと活動しています。

現在、一緒に活動していただけるボランティアを募集していますので、少しでも興味があるという方は区役所1階①番窓口「まちづくり推進担当」へ御連絡ください。

- 募集対象：上京区役所へ継続的にお越しいただける方。（月に1～2回）
- 問合せ先：上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当内
上京区文化振興会事務局
- 連絡先：075-441-5040



男女問わず
メンバー募集
してるよ！



昭和40年の第1回以来、58回目を迎えた「上京新能」を9月20日に開催。今年は天気にも恵まれ、予定どおり白峯神宮にて開催することができました。観世流による能「巻絹」などが演じられ、夕闇を照らすかがり火のもと繰り広げられた幽玄の世界に、多くの来場者が魅了されました。



11月2日、秋の「上京茶会」を相国寺塔頭養源院にて、裏千家淡交会京都東支部の御協力のもと開催。当日は朝からあいにくの雨となりましたが、近衛邸「桜御所」から移築された書院「相和亭」のお庭に降る雨は風情たっぷりでした。

表紙

題字／吉川蕉仙氏

写真／北野天満宮：梅花祭〈撮影：写真家 水野秀比古氏〉

2月25日は北野天満宮の御祭神である菅原道真公の祥月命日にあたり、梅花祭が斎行される。豊臣秀吉公が北野大茶湯を催した故事にちなんで、境内では「梅花祭野点大茶湯」として華やかな野点の席が設けられ、上七軒の芸妓・舞妓さんたちの御奉仕による茶の湯のお手前が楽しめる。御神紋「梅鉢紋」の入った野点傘の紅色と、馥郁たる香りの漂う白梅との共演も手伝って、神域は春らしい景色に溢れる。

アクセス
市バス「北野天満宮前」下車すぐ
住所 京都市上京区馬喰町
電話 (075) 461-0005

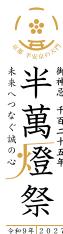


学業成就

災難厄除

北野天満宮

全国天満宮総本社



「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL441-5040)
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。



- 神学部 ●文学部 ●社会学部 ●法学部 ●経済学部
- 商学部 ●政策学部 ●文化情報学部 ●理工学部 ●生命医科学部
- スポーツ健康学部 ●心理学部 ●グローバル・コミュニケーション学部 ●グローバル地域文化学部



同志社大学
Doshisha University
<https://www.doshisha.ac.jp>



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL : (075) 251-3120



京都人さえもが恋するホテル。



BRIGHTON
KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411 (代) FAX.075-431-2360
<https://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

(東洞院通)
大丸さん北隣のよろず屋 四条店では
時計・貴金属
高価買取実施中!
鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心
ブランド品 販売・買取 (株)よろず屋

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号

ATF全国買戻
ブランド品協会 認定店

本店 地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 ☎0120-25-0700
⑩10:00~19:00 [土曜は18:00迄] ⑩平日曜・祝日 ⑩10台有

四条店 地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ Tel 075-241-7900
⑩10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通) 年中無休

●FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。●公共機関の鑑定士もつとめています。

「たのんでよかった!」
皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。



西陣の大工さん
みずほ工務店

TEL.075-204-8283

<http://www.mizuho-koumu.com>

京都市上京区上立売通浄福寺西入上る真倉町752

本田味噌本店
京都市上京区堂町通一茶五八



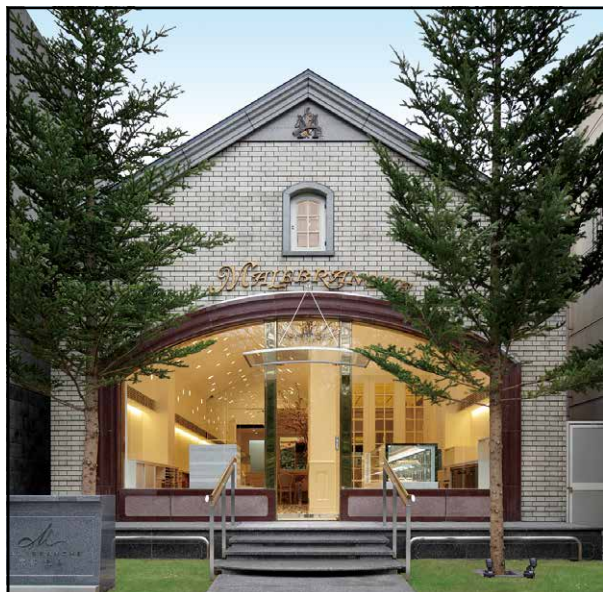
西京白味噌®

<https://www.honda-miso.co.jp>



山田松香木店
香木・薬種・薫香

〒602-8014
京都市上京区勸修寺小路町164
(金町通下五上上ル)
TEL(075)441-4694
FAX(075)441-1124



MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM-5:30PM 年中無休 (喫茶10:00AM-5:30PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル ☎ 0120-668-399

単なるデリバリーカンパニーでなく、
人や企業の信頼を結ぶ運送会社です
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物～4t車まで)

引越サービス



近運貨二第186号(社)京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257

<https://delivery-service.jp/>

